

令和6年度第1回軽井沢町学校運営協議会 会議録

1. 開催日時 令和6年12月18日（水） 14時30分～15時40分
(授業等見学：13時15分～14時20分)
2. 開催場所 軽井沢西部小学校 大会議室
3. 出席者 委員等：細萱 委員、松葉 委員、上原 委員、土屋(隆) 委員、
牧山 委員、栗岩 委員、土屋(栄) 委員
軽井沢東部小学校 川崎 校長、軽井沢中部小学校 阿部 校長、
軽井沢西部小学校 久保 校長、軽井沢中学校 山崎 校長
事務局：こども教育課学校教育係 金井 課長補佐兼係長、豊嶋 主任
4. 議 題
 - (1) 各学校経営方針について
 - (2) 今後のPTAのあり方について

5. 傍聴人数 0名（定員5名）

6. 議事内容

1. 開会

【事務局】

皆様お疲れ様です。時間になりましたので、ただいまより令和6年度第1回軽井沢町学校運営協議会を開催いたします。本日は、公私共にお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。さきほどお配りしたアンケート用紙に、授業の様子を見ていただいた感想などを書いていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。この後の進行は申し訳ございませんが着座にて進めさせていただきたいと思います。それでは、次第の2に移らせていただきます。

2. 会長・副会長の選出

【事務局】

会長・副会長の選出になります。軽井沢町学校運営協議会規則第7条では、協議会に会長及び副会長を置き、委員の互選により選任すると規定されております。委員の中から選任をお願いしたいと思いますが、どなたか推薦していただける方はいらっしゃいま

すでしょうか。

もしよろしければ事務局案なのですが、会長には昨年度も会長をしていただきました〇〇委員に、副会長につきましても昨年度副会長をお願いいたしました△△委員をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしければ拍手をお願いいたします。

<拍手>

ありがとうございます。拍手多数ということで、今年度につきましても、会長は〇〇委員をお願いしたいと思います。また、副会長は△△委員をお願いしたいと思います。なお、本日△△委員は欠席となっておりますので、△△委員には事務局より連絡させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、続きまして次第の3になりますが、ここからの議事の進行につきましては、会長をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

3. 議題

【会長】

昨年度に続き、今年度も軽井沢町学校運営協議会の会長をやらせていただくことになりました、〇〇と申します。何分力不足ですので、委員の皆様のお力を借りながら学校運営協議会が滞りなく進んでいければいいなと思っていますので、よろしくお願いいたします。

学校現場ですけれども、たぶんここにいらっしゃる校長先生、本当に日々大変なのではないかというふうに思っています。山積する課題みたいなものが報道を聞くだけで大変だなと思います。教員の働き方改革もそうですけれども、例えば不登校の問題、それから昨日のラジオでは、1クラスに約16%の発達障がいの子どもたちがいるというようなことをやっていました。たぶん先生方の実感としては、もっと多いのではないかと思うところがあります。

学校運営協議会としましては、そういう課題にはなかなか直接ご支援させていただくようなことはできませんが、何とか側面から少しでも学校応援団のようなことができればいいなというふうに思っていますので、今後ともよろしくお願いいたします。

それでは、これより議事に移らせていただきますので、よろしくお願いいたします。

(1) 各学校経営方針について、ご説明していただければと思います。それぞれの机の上に資料を配っていただいておりますので、それを見ながらご説明していただければありがたいと思います。なお、質疑応答については、一括して最後にまとめて行いたいと

と思いますが、よろしいでしょうか。それでは、東部小学校お願いいたします。

【軽井沢東部小学校長】

軽井沢東部小学校です。よろしくお願いいたします。令和6年度ですが、資料真ん中の一番上にある学校教育目標としまして本校では「風土に恥じない 爽やかな人になれ やさしく かしこく たくましく」というものを進めております。目指す学校像として、「子どもを学びの中心においた学校」「子どもが安心して、楽しく、みんな一緒に学べる学校」「保護者・教職員・地域の人々で創る学校」を目指しております。それをもとに本校では重点目標として今年度「自分でつくる・みんなでつくる」ということで、つけたい力として「自らコントロールする力」「他者とつながる力」「新しいものを創り出す力」として行っております。

重点目標具現化の具体的な取り組みとして、「集団づくり」「授業づくり」「身体づくり」ということで3つありますけれども、その中で特に本校で今年一生懸命やっていることは、対話ということです。集団づくりでも対話の充実ということで行っております。それから異年齢交流活動の活性化ということで、縦割り班といって1年生から6年生まで一緒に活動するということを中心に行っております。この2点を本校では今年度中心に行ってきております。異年齢の活動におきましては、児童会も巻き込んで今年度は縦割り班で遠足に行きたいということで、1年生から6年生がグループに分かれて本校から矢ヶ崎公園まで遊びに行って、そこで一緒に活動して帰ってくるというようなことも行っております。そのような形で、1年生から6年生が一緒に遊ぶということを行っております。

先日、軽東祭という、今まで児童会祭りといって児童会主催でやっていたものを今年度縦割り班で1年生から6年生までお店を企画運営して、お客さんにもなるというようなことを行っております。それを支える我々教師側として大切にしたい教職員の姿勢や児童に身につけさせたい基本的な姿勢といったものを書かせていただいておりますので、お読みいただければと思います。以上です。

【会長】

ありがとうございました。それでは、中部小学校お願いいたします。

【軽井沢中部小学校長】

カラー印刷の資料が中部小学校のものです。よろしくお願いいたします。現在、軽井沢中部小学校は 508 名の児童と 47 名の職員です。学校教育目標は「やさしく・かしこく・たくましく」です。学校長の願いとしては、「自分も周りの人のことも大切にできる子」「自ら学ぶ楽しさを味わい友と学びあう子」「心身共に健康に自ら生活を創っていく子」としました。子どもたちにこのようなことを願うもとになったのは、子どもたちが先生の指示を待って、先生が何かを言ったらやりますと言うことを聞いてやっていく子はたくさんいますが、自分からとか自分たちで考えてというところをもっともって育てたい、これからの社会を生きていくにあたって、そういうふうに創造したり友達と協力して新しいことを作っていく、そういう力が必要になるのではないかと思いますこのような柱を据えました。ですので、共に学び合う仲間づくりや子どもに委ねて授業の主導権をもっともって子どもに渡していくこと、それから自立心を育む活動を大切にしていくことなどを中心に行っております。

資料に研究テーマとありますが、今年度 4 月から先生方と話し合って、ここを重点に頑張っていこうと据えたものです。「表現・発信を通した児童のウェルビーイングの実現」です。自分が幸せだなと感じる瞬間をたくさん作って、それが継続していくように、そんな学校生活を作れるようにということで、3 つの部会を立ち上げて行ってきました。

特に環境アイテム部会 IU CHUBU という活動がありますが、これは非常に盛り上がっていて、それぞれの児童の好きなことやおもしろいと思うこと、なぜと思っていることを探究して、休み時間にそれぞれが畳 1 畳ぐらいのブースを持って語るということが続いています。今は週 2 回行っていますが、休み時間にやる良さというのは教師がやらせるのではなく本当に子どもたちがやりたい子がやって、聞きたい子が聞きに来てというような場所ができています。そのような中で学年や学級、年齢に関係なく同じ興味のあるものを介して語り合う場が生まれてきていて、自然と異年齢の活動もできてきているのかなと思っています。

それから、不登校の児童が多かったのですが、その不登校の児童の中で IU CHUBU があるから行きたいとか、家で IU CHUBU で発表するためのものを作っているのもので、それができたら学校に持って行って、ぜひみんなに話したいということも生まれてきていて、やはり子どもの好きなことをとことんやることができる時間や場を確保することの良さを改めて感じているところです。12 月 25 日の終業式の日には、終業式の後 30 分

間ぐらいなのですが、全校みんなでこの時間を楽しもうということも企画しています。
中部小学校は以上です。

【会長】

ありがとうございました。それでは、西部小学校お願いいたします。

【軽井沢西部小学校長】

よろしくお願いいたします。A4横の資料となります。本日は授業の参観に来ていただきありがとうございました。本日の感想を聞かせていただけたらと思います。西部小学校ですが、学校教育目標は「じぶんでかんがえ みんなでつくる」ということで、こちらの教育目標なのですが、我々の先輩方がもっと子どもたちにわかりやすい学校教育目標にしようということで、原案等々を考えてくださりました。「じぶんでかんがえ みんなでつくる」というのは、やはり子どもたちにもわかりやすく、何かいろいろな学校行事ですとか学習面でもそうなのですが、自分で考えみんなでつくっていく学校ということは、事あるごとに話をしたり、また子どもたちも全員は学校教育目標を言えないとは思いますが、割となじみやすくとらえているのかなと思っております。

この「じぶんでかんがえ みんなでつくる」学校をつくるために、3つの重点ということで、「探究」「自律」「共生」という言葉がありますが、特に探究と共生に力を入れております。教員は4月から探究する子どもとはどんな子どもなのだろう、共生するってどういうことなのだろうということを事あるごとにグループで考え、こんな姿なのではないかなというのを出し合いながら、そういう姿になるためにどのようなことをしたらいいのだろうかということを積み重ねてきております。

最終的には自律ということで、自律できる子どもにつながっていければいいなというところで、自分で判断する子どもとして育て、学校教育目標にまたつながっていくという、そのような学校ができればいいなと思っております。以上です。

【会長】

ありがとうございました。それでは、中学校お願いいたします。

【軽井沢中学校長】

軽井沢中学校校長の山崎と申します。本日はよろしくお願いいたします。それでは、

軽井沢中学校グランドデザインという資料がございますので、そちらをご覧ください。本校の学校教育目標は、そこに書いてあるとおり「知力と体力にあふれ、心身ともたくましい、心豊かな生徒の育成 ～すてきな軽井沢人になろう～」ということです。それを受けまして、重点目標は「人間力の向上」ということで、それを達成するために重点活動として4つ挙げさせていただいております。「あいさつ」「清掃」「合唱」「自ら学ぶ、友と学ぶ」ということです。1番2番3番につきましては、生徒会活動であったりとか、担任の学級経営であったりする中で、ここまでそれぞれ工夫しながら取り組んできております。また、4番の「自ら学ぶ、友と学ぶ」ということについては、授業改善というところにつながるとは思います、友と対話しながら学んでいく中で、自分の思っていることを相手に伝えたりとか表現したりするということを、今年1年間大事にしようということで、キーワードはアウトプットということで今年取り組んでおります。

また、資料には書いてありませんが、やはり不登校支援や特別支援教育の充実というのが本校にとって大きな課題かなと思っております。町長からオープンドアスクールの開校について、今年10月末にお話がありましたが、それに向けて少しずつ準備を進めているところです。また、特別支援教育の充実に関して、今小学校でLD等通級指導教室という、いわゆる読んだり書いたりすることに困難を抱える子どもたちに個別に支援をする通級指導教室があるのですが、これが中学校にもできるよう今働きかけており、まもなく県の方から開設の有無が明らかになると思いますが、いずれにしても不登校であったり、特別支援教育の充実というのは、中学校にとってはとても大きな課題と感じております。

また、子どもたちが笑顔でいられるためには、やはり教職員が笑顔でいれないといけないと日頃思っております。積極的に働き方改革を進めておりまして、中学校のテストというと1日で全部終わりにして、その日の午後採点するというパターンです。そうすると、部活のある教員は部活を見てから採点して、採点が終わると22時23時になってしまいます。次の日にテストを返さないといけないとなると非常にきついということで、今年から5時間あるテストを1日目3時間、2日目2時間というふうに分けて、1日目の午後はフリーにして、教科担任がきちんと採点できるようにということで、時間のやりくりしながら工夫するなど、働き方改革についても積極的に今年取り組んできました。まだまだ、改善の余地はあると思いますが、今後も頑張っていきたいと思います。以上です。

【会長】

ありがとうございました。すべての学校から説明していただきましたが、何か質疑がありましたらお願いしたいと思います。

【A委員】

中部小学校の校長先生にお聞きしたいのですが、研究テーマの児童のウェルビーイングの実現というところについて、もう少し詳しく教えていただければと思います。

【軽井沢中部小学校長】

ウェルビーイングの実現という言葉は、実は長野県教育委員会から発出されている第4次教育計画に関わっている言葉で、ウェルビーイングと言ってしまうと少しわかりにくいのですが、幸せだなと感じている状況を継続的にしていくというものです。子どもにとってもそうですし、社会にとってもそうなのですが、そのためには子どもたちに私たちが何か教える時に頭から教えるのではなくて、子どもたちの中にある好きなものや楽しいもの、おもしろいと感じるもの、なぜって思っていること、そういう個々の想いを大事にして、そこを深く学習していくことで、その子の楽しいな、学んで楽しいなという幸せ感を継続させていく、そういうような取り組み大切にしています。

表現発信を通してとわざわざつけたのは、これは職員と議論したのですが、私は自分が調べたり考えたりしたものが出来上がってから発信するという思いでずっと生きてきたのですが、話し合いを重ねていく中で、子どもたちは何かが出来上がったから発表するという形態が今までとても多かったのですが、そうではなくて、好きなものや楽しいものに関わっているときは何か人に話したくなったりする、そのことを大事にして、何かができたから発表ではなくて、表現や発信をしながら友達と関わったり、もっとそのことが好きになったり、もっと語り合いたくなったりする場を作って、その子の学びをもっと深めていきたいなど、そういうことで進めています。このような説明でよろしいでしょうか。

【会長】

関連した質問はありますか。おそらく、聞くだけではよくわからないと思います。ただ、子どもたちの具体的な姿で話してもらうとよくわかると思います。

例えば、M君という子どもがいます。その子はベイブレード（独楽みたいなもの）が

とても好きで、児童館に大事に持ってきて私のところに来ていろいろ説明してくれます。今までM君のそういう姿を見たことはなかったのですが、自分の好きなものを一生懸命自分の言葉で語って、それを友達に伝えようとしている。同じことが好きな子どもがいて、仲間が集まって独楽での戦いが行われて盛り上がります。今まで言うことを聞かなくて困った子どもたちが、それをもとしながら関わって会話が弾み、何かやっているという姿があって、昔だったらこんなおもちゃ持ってきて…と学校は思うと思います。だけど、そういうことをあえてやって、子どもたちの主体的な姿を変えていこうという取り組みなのだろうとM君の姿から思いました。違っていたらごめんなさい。

【軽井沢中部小学校長】

その通りです。子どもの姿で語らせていただくといろんな子がいて、例えば授業中に時間があると漫画とか描いてしまう漫画が好きな子がいて、いらぬ紙にいっぱい漫画を3冊ぐらい描いてきて、今までだったらなんで漫画描いているのと言われてしまうような子が、その漫画を3冊並べて僕が描いた漫画です、読んでくださいと言って、そういうのが好きな子が来て読んで感想を言ってくれたり書いてくれたりして、今会長がおっしゃられたように、ある側面から見たらなんだこれって思われがちだった子が、そこで生き生きしていました。

【会長】

私も、そういうのが子どもにとっていいなと感じました。

他にはよろしいでしょうか。何かありましたら、別の機会にでもご質問していただければと思います。

それでは、(2) 今後のPTAのあり方についてですが、おそらく昨年の最後に今後PTAってどうなるのだろうかというような話題が出たところで、今回議題にしていたと思いますが、今PTAのあり方は全国でもとても大変だと思います。軽井沢の場合は、7年も8年も前からPTAに所属しない方がいるのですが、そういう中で今後どのようにやっていくのかということも含めて考えていかなければいけないということで議題に挙げていただいたと思います。事務局より概要等を説明した後、各学校長より現状を話していただければと思います。それでは、事務局よりお願いいたします。

【事務局】

よろしくお願いいたします。皆様のお手元にある今後のPTAのあり方について、こちらの資料に基づきまして説明させていただきます。PTAを取り巻く環境というのは、年々厳しくなっている状況です。少子化や家庭数の減少、共働き世帯の増加、価値観の多様化などPTAに入る入らないというような話は結構出てきております。学校行事の方は、前年度踏襲というところが結構多く、PTAが行う業務量は変わらないものの加入者の減少等により会員への相対的な負担が増加しています。また、コロナ禍になりましてPTAの活動がほぼほぼできないような状況が一時期ありました。それまでは普通に行っていたのですが、いったんそこで途切れてしまったことにより、今度コロナ禍が明けて、今までと同じような生活に戻しましょうといった中で、PTA活動も前と同じような形でまた再開していきたいという話が出たときに、コロナ禍でいったん途切れてしまったということも影響しているのかなと思います。行事やイベントをやることについて、少し抵抗感が出てきていて、保護者の方がPTAに加入してもらうことが少し難しい状況であると考えております。

そういった中で、岡山県のPTA連合会が解散するということがありました。こちらでも会員数の大幅な減少等により、活動が継続できなくなり令和6年度末で解散することになりました。都道府県レベルのPTA連合会の解散は全国初ということでニュースになりました。

しかし、やはりPTAの役割というものは大きいと感じております。教員が業務多忙を極める中、登下校の見守りや学校行事などを円滑に行うには、教員だけでなく保護者やPTAの協力が不可欠で、PTAの存在は非常に重要であると感じています。また、子どもたちに多様な人との関わりや様々なイベントを通じた環境を提供することは、PTAの存在意義の一つであると考えておりますが、その中でもPTAの存在意義を忘れず時代に即した変革が必要ではないかと考えられます。

そこで、軽井沢町における今後のPTAのあり方ということで、PTAの現状や課題の把握、PTA活動の見直しや情報発信のあり方、また、PTAが行うこと・学校が行うこと・地域などが主体になって行うこと、など整理をしていく必要があると考えております。

このような点を踏まえて、各学校からPTAの現状を説明していただき、また、委員の方には今後どのような方向が良いのかなど、様々な意見をお聞かせいただければと思います、今回議題とさせていただきます。

【会長】

ありがとうございました。それでは、現状を東部小学校からお願いいたします。

【軽井沢東部小学校長】

今年度、東部小学校ではP T Aの改革を1年間かけて行っているところです。5月にtetoruにてP T Aの改革に関するアンケートを行いました。そこで、P T Aの方々からいろいろなご意見をいただき、それをもとにP T Aの本会の方で来年度の改正案を考えていただきました。

学級会長については、常任委員会の出席回数を減らします。また、運動会の準備などは常任委員会でやることになっていましたが、それも関係者のみで実施をすることで負担を減らします。ほかには、広報部がありましたが、これを廃止して、お便りのものは学校だよりと統合します。保護者による読み聞かせを行うピノキオクラブについても廃止し、ボランティアの方が引き継ぐということになりました。

また、P T A本会については本会役員を決める時の選考委員長を新たに置きました。環境部は廃止して、環境部と環境部長を一つにまとめて選考委員長として残すことになります。また、各支部長につきましても、今まで環境部の部員が支部長を務めていましたが、環境部が廃止になるので支部長会を新たに作りますが、そこには部長・副部長は置かないこととしております。

また、クラス役員の選出についての変更点として、学級懇談会で役員選出をしないことや、P T Aの入会同意書に来年度から役員を引き受けることができそうな方に記入していただくという形を取ります。本会役員の選出方法では、選挙投票をGoogleのフォームで行います。

また、P T A会費についての変更として、P T Aへの加入の有無で子どもたちに不利益があってはならないということで、子ども1人600円の保護者費というものを新たに集めます。集めた費用は、駐車場の整備費や慶弔費、備品費用などP T A会費の中でも全体に関わるものについては保護者費で扱います。P T A会費は1人350円ということで、こちらはP T Aの会費として必要なものだけを扱うような形にしました。このような内容で総会にて同意を得て、来年度からP T Aをスリム化することになりました。以上です。

【会長】

ありがとうございました。中部小学校お願いいたします。

【軽井沢中部小学校長】

現在、中部小学校の家庭数は 392 で、全家庭が P T A に加入していただいて会費を納めていただいています。組織については、本会役員が 15 名、事業部として 6 つの委員会があり活動しています。その 6 つの委員会に各学級から委員を選出して組織しています。P T A 会費は 1 家庭 2,000 円負担していただいています。

P T A 活動については、多くの保護者の方が協力してくださっていて、感謝しています。今年は、役員や委員の負担を軽減するためにはどのようにしたらいいかというところを重点にしています。まず、会議は 17 時 30 分開始として 1 時間以内に終わらせるようにしたり、紙や電話での連絡ではなく B A N D というものを利用して一斉配信を行ったり、意見の吸い上げを行っています。また、Z o o m などを使用して会合を行うことで、学校に集まらずに行うこともできるようになりました。

また、前年踏襲を見直し、運動会の駐車場係や P T A 作業などについて、今年は今年のやり方でやっていこうということで、例えば駐車場係になった保護者の方がお子さんの運動会で頑張っている姿が見られないということで、それなら会費からお金を出して警備員をお願いしようということで、今年はそのような形で行いました。

課題と今後の方向として、今まで P T A の加入の意思を聞いてきませんでしたが、今後は聞いていくということで現在協議を行っているところです。それから、学校独自で進めていくものと町で足並みをそろえた方がいいものがあるのかをお聞きしたいと思っています。もしあるとしたら、4 校で相談して進めていきたいと思います。

児童数・家庭数が非常に増加してきており、多様な考え方がありますので、会則を来年度 1 年間かけて見直し、修正をしていく予定です。以上です。

【会長】

ありがとうございました。それでは西部小学校お願いいたします。

【軽井沢西部小学校長】

本校では P T A 加入の意思確認を行っており、4 月現在では 278 家庭のうち 260 家庭が会費を払って加入していただいています。海外に拠点を置いている方なども含めてで

すが、18 件は加入していないという状況です。

P T A活動を行うにあたり、今年度の会長さんがP T Aの方々に聞いたところ、そもそもP T A活動って何をやっているのかよくわからないという声を多数聞いたそうです。ですので、今年度は積極的にP T Aではこのような活動をしていますという情報を共有するようにしています。また、今年度特徴的なこととして、会長さんが積極的に保護者に向けて講演会を開催したり、夏休みに学習会を開催したりといったところで力を入れていただいています。

また、本校ではサークル活動をP T Aで立ち上げることができるようになっており、今年度のサークル活動として本の読み聞かせサークルや八風山強歩登山を支えるサークルを立ち上げております。なぜそのような流れになったのかというと、持続可能な継続的に学校に協力できる一つのあり方として、そのようなサークル活動というものを立ち上げてP T Aの方々が頑張ってくださいしています。

課題としましては、先ほど東部小学校でもありました専門部を縮小する必要があるのかなというところと、本校では2,000 円のP T A会費を集めていますが、P T A会費の削減も今後の検討課題と考えております。以上です。

【会長】

ありがとうございました。それでは中学校お願いいたします。

【軽井沢中学校長】

来年4月に向けてP T Aに加入するかしないかのアンケートを取りましょうということで、現在その内容について審議しているところです。ただ、あくまで私の個人的な意見ではありますが、中学校のP T A活動はそこまで大変ではないのではないかと考えております。私は小学校の教頭も以前務めていまして、小学校の方がいろいろな行事に保護者の力を借りる場面が多かったです。中学校では保護者の方をお願いすることはあまりないと感じております。

逆に今年の役員さんたちの中には、もっと協力したいから何か新しいイベントを考えましょうという、今の流れに逆行するようなアンケートを取ろうとしていたりするので、今後どのような展開になるのか様子を見たいと考えております。以上です。

【会長】

ありがとうございました。それでは、質疑がありましたお願いいたします。

【B委員】

実は私も西部小学校でPTAをやっていましたが、その当時からもPTAに加入するかしないかですとかPTA活動が重荷に感じるといった話もありましたが、現在ここまで問題が大きくなっているということは正直驚きを感じています。自分たちがPTA活動で行事を行うことで、PTAの会員同士の絆が強まったということもあるのではないかと思います。

私の経験ですと、西部小学校の120周年記念の時に記念事業をやろうということで歴代の会長たちの協力を得て行ったり、私的にはなりますがその流れが今も続いていて、町の商工会のイベントを行ったり食事をしたりしていますが、昨今ではPTAの加入問題が大きくなったりしていて、寂しいと感じます。もっと前向きにPTAの会員同士がいろんなことをやって、お互いにつながるようなPTAにしましょうといったような方向に行ってもらえればと思っています。

【会長】

ありがとうございました。他にご意見ありますか。

【A委員】

私も東部小学校のPTA会長、そして軽井沢高校のPTA会長を歴任しましたが、今のPTAはそんな風になってしまっているのかと感じました。さきほど中学校の校長先生がおっしゃっていた、PTAで他に何かやりたいといったというのは、おそらくそれは数年前まで小学校にいた保護者の方だと思いますので、数年前はそれぞれの小学校でPTA活動を活発にやっていた方ではないかと思っています。

私も東部小学校でPTA会長をやっていたときにPTA連合会に行くと、会議をして懇親会をしたときにみんな楽しそうだなと思いました。また、駐車場の雪かきを除雪車でやってもらうときに、学校の児童のためにということでお願いして安価にやってもらったりといろいろありました。今の状況を聞いていると、その感覚が薄れているようで少し残念な気持ちです。

【会長】

歴代のPTA会長さんからすると違和感があると思います。なぜそうだったかというのを説明しますと、コロナで約4年間活動ができない状況が続いて、そうすると中学校はその間に1年生が卒業してしまいます。つまり、中学校でやっていたPTAの方たちは、まったく引継ぎがないまま終わってしまいます。新しく中学校に入ってきた方は一緒に活動したとか何かしたとかいったものがなく、ぷつと切れてしまったわけです。そうすると、1からPTA活動を作り直さなくてはいけないということで各学校は苦労しています。

ところが、1から作り直そうとすると価値観が多様化している状況で意見をどのようにまとめていくのか難しいと思います。また、今は保護者の方がSNSでつながっていて、PTAは面倒くさいといった意見があると流されてしまう傾向があると思います。このような状況では、1から作り直すのはより大変になっていると思います。

【軽井沢中部小学校長】

中部小学校では、今年の4月からこれまでに34家庭が転入してきていて、関東圏など他の県などから様々な方がやってきて、その方たちの意見も大事にしながら、PTAだけではなく、上手にやっていくにはどうしたらいいのかなと思っています。

【会長】

軽井沢は移住の関係でいろんな方が来ています。コロナ禍も影響してか、関東圏からの移住は多いと感じます。その方たちの多様な価値観を取り入れてまとめていくのは本当に大変だと思います。こういう中でこの議題を挙げていただいたというのは、この現状を委員の方に知っていただいて、できる範囲でどのようなことをやっていくのかということと、今までこういうことをやってきて楽しかったという話を広めてもらって、保護者の方たちにそんなことだったらやってみたいなと思ってもらえる人を一人でも増やすことが大切だと思います。

【軽井沢東部小学校長】

東部小学校でもいろいろと変えていこうとやっているなかで、子どもたちのために何かをしてあげたいという思いは変わらないものだと思います。保護者の方もPTAに入らなかったら子どもに不利益がありますかと尋ねてくることはありますが、入らなくて

も子どもたちの不利益にはならないと説明しています。

地区のPTAの場合ですと、どうしても地区の行事の際に実費で負担していただくといったことが出てしまうことがあります。PTAに入っていない方もお金を払わなくてもいいとなってしまうと、だったら入らなくていいという雰囲気が広がったり、子どもたちのためにやってあげたいのだけど、それをするとかえってよくないということもあります。みんなが納得して子どもたちを支えるために何かできないかなと考えて、PTAの予算を分けて、PTAの保険などPTAに紐づけられている活動のものは賛同してくださる会員に払ってもらい、子どもたち全員のためのものは保護者費で払いますという形で今動いています。

また、新たにボランティアをやりたい方は我々も支援しますのでぜひ声を上げてくださいという形で運動会の手伝いや読み聞かせのボランティアなど、保護者の方などに子どもたちのために何かやりませんか働きかけています。

【B委員】

西部小学校の借宿北と南の支部では、コロナ禍になって獅子舞がしばらくできなかったのですが、来年の1月に行うということでPTAの方が主になって獅子舞が復活します。こういう行事を通してPTAの方がまとまってつながりができていけば、PTA活動にも期待が持てるのかなと思います。そういうふうに進展していけばいいなと思っています。

【会長】

子どもたちのためにというところは保護者の皆さん持っていて、移住してきた方たちは教育的な意識の高い方が多いので、そういったところに着目していくのもいいと思います。

例えば、中部小学校が会場となってこどものまちという体験できるイベントがあって、すごい人数の子どもたちが参加して、ボランティアで保護者の方もたくさん参加しています。軽井沢には熱心な方も多くいらしゃってすごいなと思います。ただ、そのような方は、自分はこういうことをやりたいというものを持っていることが多いと思うので、これまでのPTA活動の枠として考えると難しい部分もあると思います。

【C委員】

東部小学校の育成部長さんから連絡があつて、P T Aの加入が任意になったと聞いて、東部小学校に通っているけれどもP T Aに入っていないお子さんは地区の夏祭りに参加できますかと問い合わせがありました。私は子どもたちに夏祭りの思い出を作ってあげたいので、P T Aの加入の有無や区の加入の有無に関係なく、他の地区からも参加してもらいたいと答え、学校の方にも夏祭りの周知をしました。

今年は5年ぶりに子供神輿をやって、にぎやかにできて良かったなと思いました。その後、育成部長さんが子どもたちの感想文を私のところに送ってくれて、楽しい夏祭りをありがとうございましたという言葉があつて、私はよかったなと思いました。こういう行事などを通じて、子どもたちや地域のつながり、思い出を作ってもらふことを含めてP T Aと連携していけたらいいなと思います。

【会長】

P T Aについてはなかなか結論が出るものではありませんが、私たちは知らない部分もたくさんあるので、まずは現状を知ることができたというのは大きな第一歩になったと思います。そして、皆さんから話があったように、いろいろな行事がコロナ後に復活してきました。一つのヒントとして、リーダーみたいな方がいると何かできるのかなと思いました。P T A活動でもこういったことが少し参考になればいいと思いました。

4. その他

【会長】

他にはよろしいでしょうか。なければ事務局にお返しします。

【事務局】

事務局より連絡させていただきます。次第に記載のとおり、第2回学校運営協議会を令和7年2月頃に予定しております。日程が決まりましたらご連絡させていただきますので、よろしくお願いいたします。

また、本日、皆様にも試食いただいたシェフ給食を小中学校で行いました。西部小学校にもテレビ局に取材に来ていただきまして、本日夕方の長野県版のニュースで放送される予定とのことですので、皆様もよろしければご覧ください。

5. 閉会

【事務局】

それでは以上を持ちまして、令和6年度第1回軽井沢町学校運営協議会を終了いたします。お疲れ様でした。